

令和7年度

気象庁・横浜国立大学 共催

台風防災シンポジウム

～予測の難しい台風に立ち向かう～

7月19日(土)13:00-16:00

オンライン開催(YouTube生配信)／参加無料



参加受付は
こちらから↓



締切7月12日



講演 1「台風に備える防災気象情報 ～令和6年のふり返りとともに～」

石原幸司氏 気象庁大気海洋部気象リスク対策課 アジア太平洋気象防災センター所長

福岡県生まれ、石川県育ち。気象大学校を卒業後、新潟地方気象台での勤務のほか、気候情報課や気象研究所にて気候変動や異常気象に関する調査研究に従事。2019年に気象研究所企画室長、2021年に東京管区気象台気象防災部長を経て、2023年から現職にて日本及び北西太平洋域での台風防災に関する管理・調整を担当。



講演 2「令和6年台風第10号：遅い移動速度と難しかった進路予測」

山口宗彦氏 気象研究所応用気象研究部主任研究官

群馬県出身。気象大学校卒業後、気象庁予報部、米国マイアミ大学を経て、2010年から気象研究所勤務。2013～2014年ヨーロッパ中期予報センター客員教授、2021～2023年世界気象機関世界天気研究科科学官。横浜国立大学総合学術高等研究院客員教授。台風の進路や強さ、発生等の予測精度向上のための研究・開発を行う。これまで、台風の5日先進路・強度予報の実用化や動的な台風予報の実用化などに貢献。



講演 3「台風の予測精度向上のカギとなる航空機観測」

坪木和久氏 台風科学技術研究センター副センター長／名古屋大学宇宙地球環境研究所教授

兵庫県出身。北海道大学理学部卒業後、東京大学海洋研究所助手、名古屋大学助教授などを経て現職。台風や梅雨などの集中豪雨、線状降水帯といった現象についてシミュレーションと観測の両面から研究を行う。2017年、日本人として初めて航空機によるスーパー台風の直接観測を実施。令和4年度文部科学大臣表彰科学技術賞受賞。

パネルディスカッション「予測がしやすい台風、しにくい台風」

ファシリテーター：佐藤正樹氏

パネリスト：石原幸司氏、山口宗彦氏、坪木和久氏、森田正光氏、竹下愛実氏



パネリスト 森田正光氏

気象予報士・気象キャスター

愛知県出身。財団法人日本気象協会での勤務を経て、1992年に日本初のフリーお天気キャスターとなり、民間の気象会社である株式会社ウェザーマップを設立。テレビやラジオ出演のほか全国で講演活動も行う。



ファシリテーター 佐藤正樹氏

台風科学技術研究センター副センター長
東京大学大気海洋研究所教授

山口県出身。東京大学で博士号を取得後、大気大循環、熱帯気象、台風、数値モデルなど幅広い分野の研究に従事。スーパーコンピュータ「富岳」を用いた数値シミュレーションや、IPCC第6次評価報告書の作成にも著者として参加。



司会 竹下愛実氏 気象予報士・気象キャスター

愛知県出身。防災士・気象防災アドバイザー・野菜ソムリエ。気象キャスターとしてNHKや民放各局で気象情報担当を歴任し、バラエティ番組での気象監修も務める。各地の小中学校での講演・出前授業やキャリアパス教育、企業や自治体での防災研修のほか、テレビ・ラジオの出演やWebニュースの執筆など幅広く活動。

お問合せ <https://trc.ynu.ac.jp/>



4559trc@gmail.com

045-339-3346 (平日10時～17時)

主催：気象庁・国立大学法人横浜国立大学

